

持経宿及び平治宿巡回と転法輪岳への行事に参加して

◇実施日：平成27年10月25日(日) 快晴

◇参加者：平治宿班 川島 功、濱野兼吉、橋本 梓、畑清子、

中島哲郎、石橋陸子、生熊千満子、奥村順夫、

竹中卓治、高階鈴子、高階美根子、越野智子。

持経宿班 児嶋道夫、梶野照雄、沖崎吉信、青木宏充。

平治宿班は、9時25分に持経宿を出発。各々が背負子やリュックに薪をしょっての出発である。折しも山は紅葉のし始め。「真っ赤に紅葉する樹木はここいらでは少ないよ」という会話を耳にするのが、途中、青空に映える見事な紅葉の樹に出会う。

持経宿の周辺は自然林が残る貴重な山域で、風も穏やかな秋晴れの下、サクサクと気持ちのいい音を響かせながらそれぞれのペースで平治宿に向かう。途中、千年檜で手を合わせたり、小ピークで一息入れたりしながら進んで一時間で無事到着することができた。

ここから、作業のために平治宿に残った4名のメンバー(川島・濱野・橋本・奥村)を除いて、あとの8名は転法輪岳を目指した。

急登の箇所も少なくはなかったが、今日の秋晴れは完璧に近く、雲一つない青空をバックに、右も左も前も後ろも遙かに広がる秋山の景色を楽しんでいると、20分ほどで山頂に着いたのだった。

以前は岩頭に立てば展望があったという転法輪岳の山頂で一息入れた後、戻りがたら北を望めば、釈迦、孔雀と山並みが続き、東には大台の山塊がどっしりとその姿を惜しげもなく現しているのだった。

宿内で昼食後、平治宿を後にし、温かい日差しとちよっぴり冷たい風を感じながら持経宿へ戻る。帰りは薪を下ろした分だけ背中也軽く、下り基調の道中は行きよりもずつと足取りが軽くなる。

綺麗になったばかりの持経宿では、さらに快適な居場所へとバージョンアップする作業がいくつも行われたところだった。ソーラーパネルによる電気の確保がされ、バッテリーを持って上がらなくてもLED電灯をつけたり、スマホや携帯の充電ができるようになった。少し前までには考えられないこと。それぞれに持ち寄った材料や機材で、ときばきと作業がされていく様子は誰かからの指示ではなく、メンバーそれぞれの意思によるものだけということ強く感じさせられた。

14時前になると、そろそろお茶に・・・という声が掛かり、下山前のコーヒータム。おいしいお茶請けやみかんが振る舞われ、皆で一息入れる。

初参加の越野には、「般若心経の暗記」が山彦ぐるーぷ参加の条件として課されたが、「い、いつまでも居たくなるような居心地の良さだったが、14時半には記念写真を撮り下山することになった。

途中、林道の半ば「石ヤ塔」では車を止め、大迫力の岩場を皆で眺めた。

下北山村スポーツ公園には15時半頃到着、沖崎さんから今日のまとめのお話を伺い、次の行事の予告もあった後、解散となった。

(記 越野)